

三宅島

概況(平成15年8月)

火山活動は全体として低下傾向にあります。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、今年に入ってから低下の割合が緩慢になっています。火山性地震の活動に大きな変化はありませんが、連続的に発生している火山性微動の振幅は小さくなっています。観測開始以来続いていた三宅島の収縮を示す地殻変動は、収まっています。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第 422 号 (1日2回発表)	1日 09:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第 483 号	31日 16:30	

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

8月に実施した二酸化硫黄の放出量の観測結果は次のとおりです。(表2、図3 -)

火口内最高温度は雲のため観測できませんでした。

表2 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
8月5日	6,200トン 8100トン	-	海上保安庁
8月12日	8,800トン 8700トン 5800トン	-	警視庁
8月20日	8,200トン	-	東京消防庁
8月25日	6,300トン 5600トン 7000トン 6500トン 4800トン	-	陸上自衛隊

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上 1,000m(30日)でした。

(図3 -)

地震活動の状況

山頂直下の地震活動は、やや低周波地震の回数が4月から増加傾向にありましたが、8月は減少しました。高周波地震と低周波地震の活動は低い状態が続いています。(表3、図3 - ~)

表3 火山性地震日別回数表(三宅島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計		
高周波地震	1	3	2	1	3	3	2	1	0	2	18		
やや低周波地震	9	20	28	26	19	10	13	14	30	18	187		
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計		
高周波地震	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	6		
やや低周波地震	6	14	11	19	14	7	7	22	16	28	144		
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	2	0	0	1	0	0	1	2	2	0	8	32
やや低周波地震	19	28	21	23	25	15	16	12	13	15	11	198	529
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

火山ガスの放出活動と関連があると考えられている連続微動の振幅は、長期的には低下傾向にあり、7月末には観測できないレベルまで落ち込みましたが、8月半ばよりやや増大しました。(図1)また、10日以降、連続微動の振幅が10~20分間隔で一時的に増大する現象が観測されましたが、それに伴った噴煙、地震等、他のデータの変化は見られませんでした。

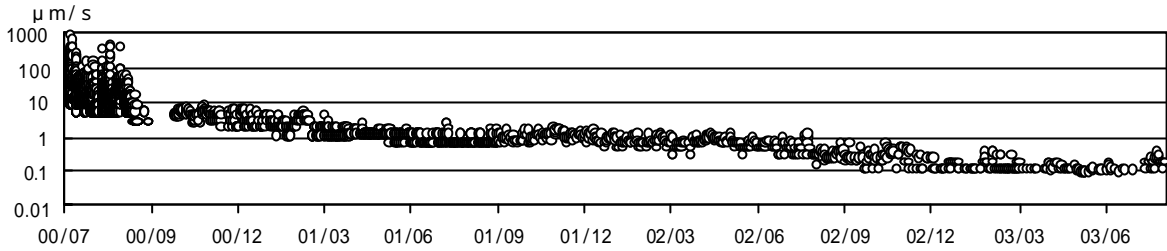
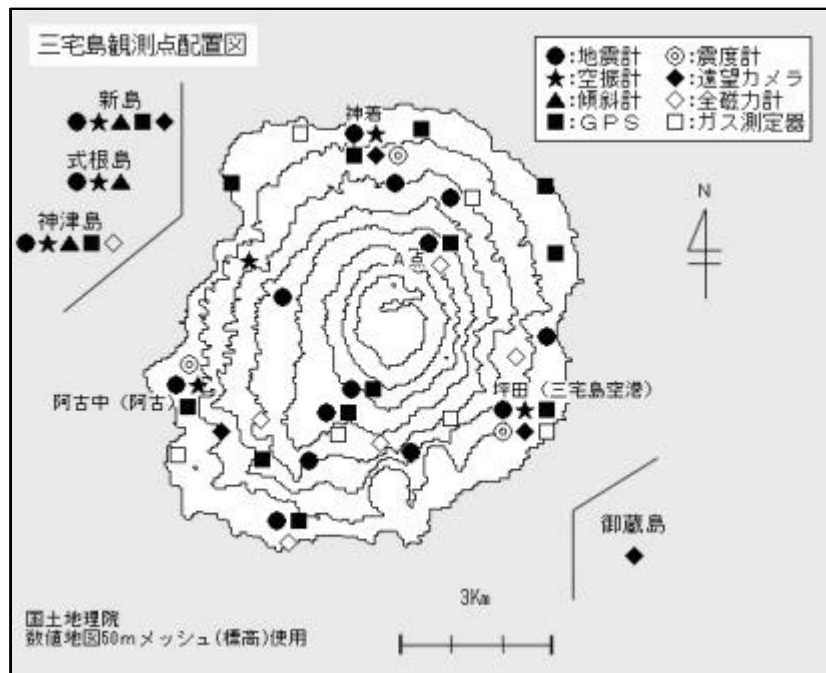


図1 連続微動の振幅(2000年7月7日~2003年8月31日)

地殻変動の状況

GPS観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、次第に小さくなり、2002年夏ごろからは、その傾向が収まっています。(図2)



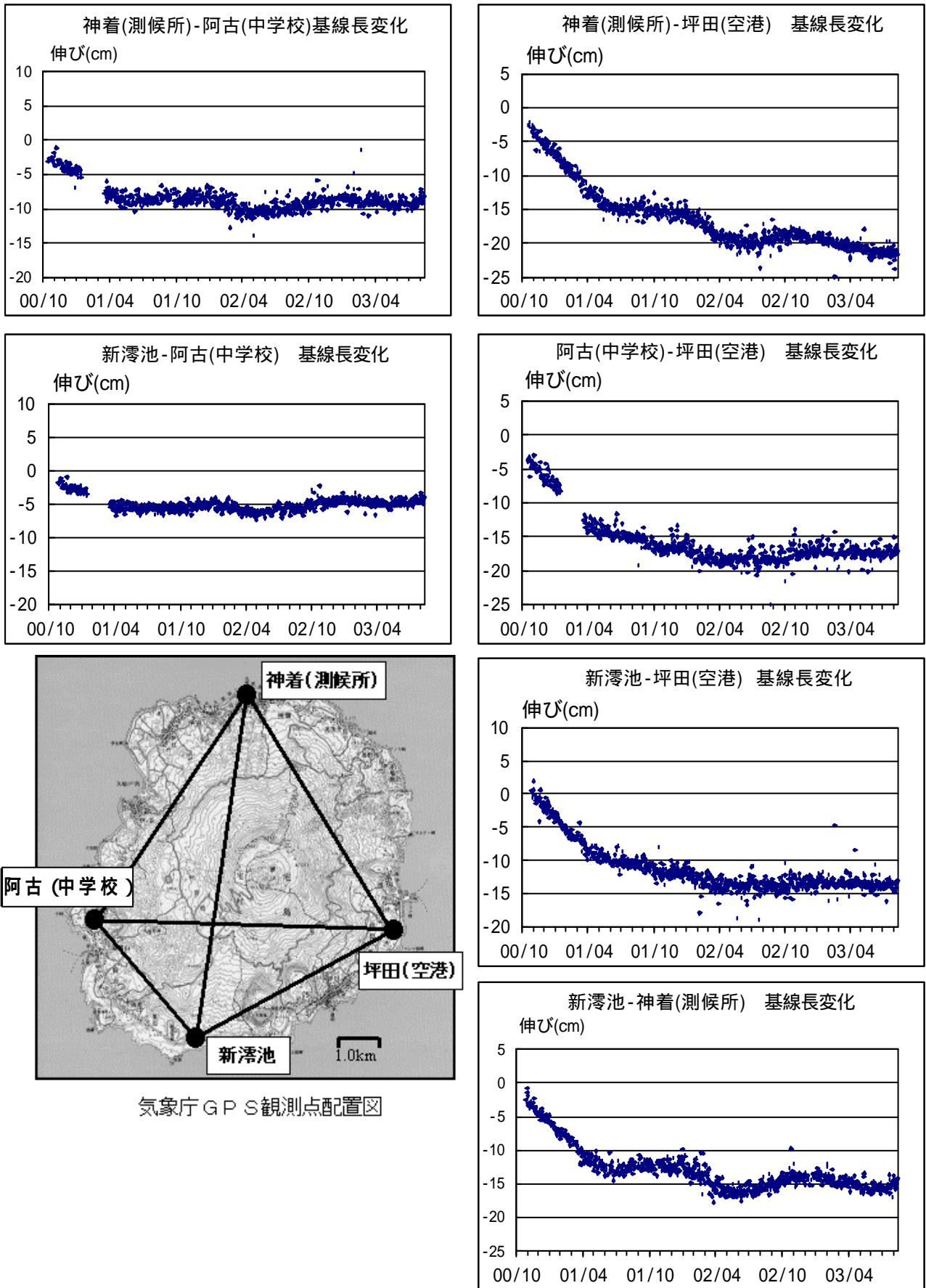


図2 三宅島GPS観測結果 (2000年10月1日~2003年8月31日)

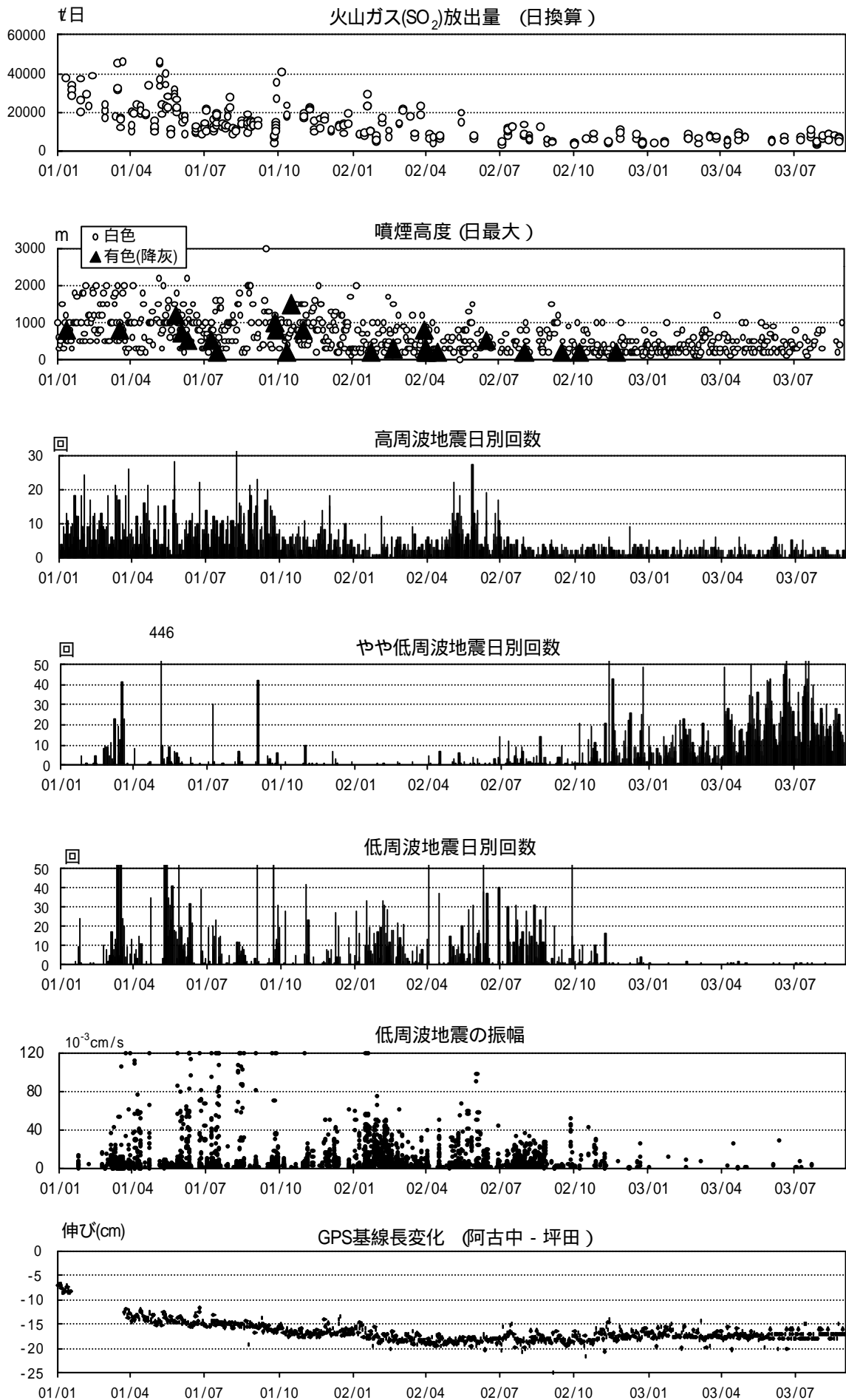


図3 三宅島火山活動経過図 (2001年1月1日~2003年8月31日)